

新木一ル整備候補地調査業務 調査結果（概要版）

敷地条件の整理

敷地諸元 【新候補地】	
■ 計画地	徳島県徳島市藍場町2丁目14番地他（通称「藍場浜公園・西エリア」）
■ 敷地面積	新ホール予定部分 約 6,600㎡ ※あわぎんホール側敷地の一部を共用 (現況の敷地境界、あわぎんホールの敷地境界等、今後確定が必要)
■ 用途地域	都市公園・商業地域
■ 建蔽率 / 容積率	商業地域の場合：100%（角地緩和、耐火建築物緩和 適用の場合） / 400%
■ 防火地域	準防火地域
■ その他の地域	駐車場整備地区（1台/特定用途150㎡＋1台/非特定用途400㎡あたり）
■ 埋蔵文化財	徳島城下町跡及び関連遺跡の指定（徳島城下町跡（寺島））
■ 前面道路幅員	北東側 約 27 m (国道 192号線) 北西側 約 11 m (市道 南出来島本線) 南東側 約 19 m (市道 春日橋通り線) 南西側 約 3.5 m (市道 郷文側道歩線) 敷地中央 約 1.9 m (市道 藍場・船場歩線)
■ 道路斜線	20m／勾配 1.5
■ 隣地斜線	31m／勾配 2.5
■ 北側斜線	なし
■ 日影規制	なし
■ その他の高さ・階数制限	なし
■ 都市計画施設	
□ 都市計画公園	4.4.2 新町川公園（地区公園：徳島市決定）
□ 都市計画道路	8.7.2 藍場町西大工町線 幅員6m
□ その他の都市計画施設	2号藍場町公園駐車場（告示番号：徳島市 70 号） 駐車台数：295台(内：今回計画敷地内 95台)
■ その他の必要な届出等	開発許可(都市計画法第29条)
■ インフラの状況	
□ 電気 □ 水道 □ ガス □ 通信 □ その他	
■ BCP	
□ 浸水深さ：高潮（最大1.0～3.0m）／ 津波（最大1.0～2.0m）	

敷地現況図

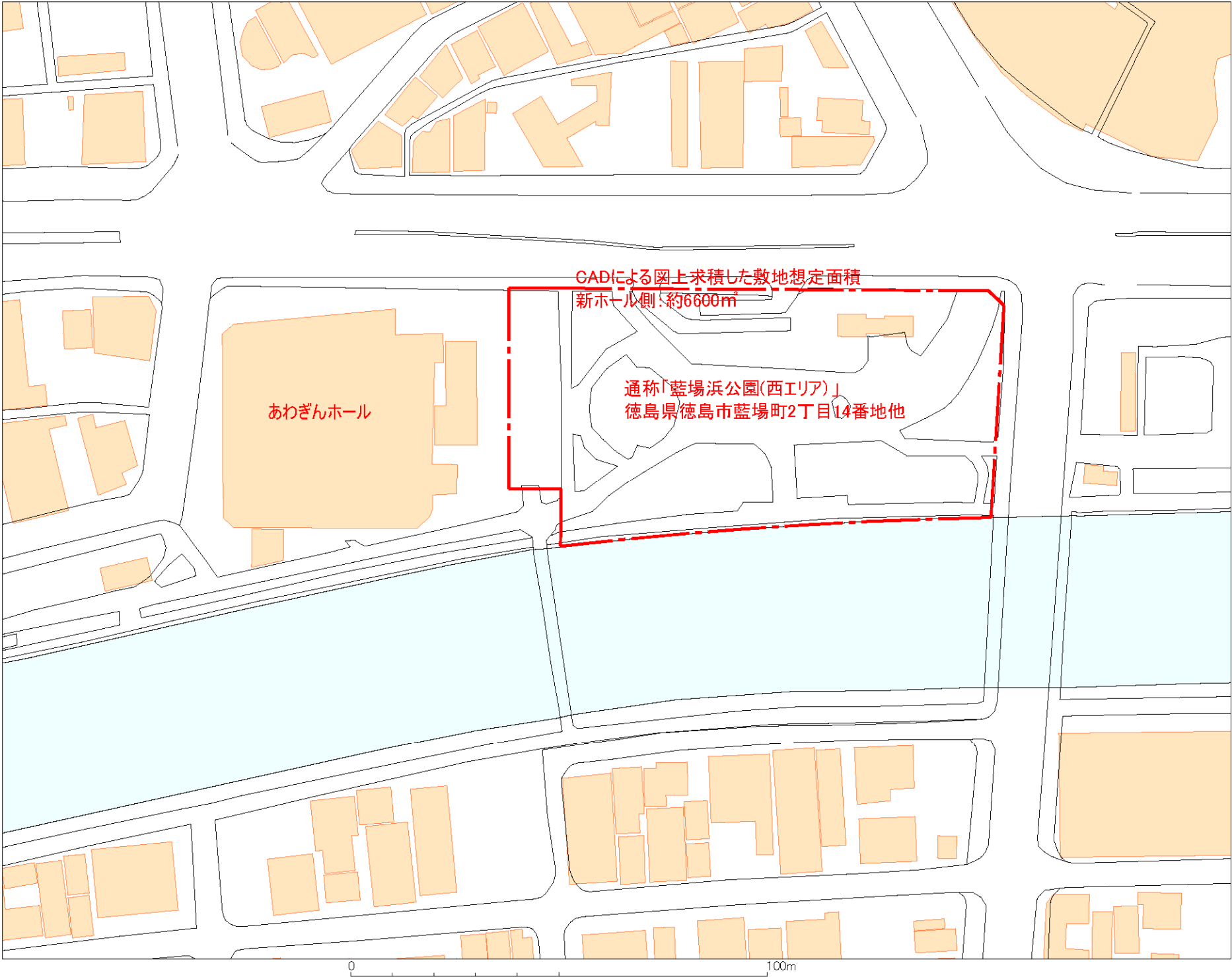
徳島県徳島市

世界測地系
第4座標系
西 95,969,843
南 118,592,044
東 98,429,605
北 120,509,172

縮尺:1/1200



T.P=0.00m



地質調査

No3

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調	査	者	松本文 龜場浩公 地質調査業務
---	---	---	-----------------

事業名 または 工事名 連報 (4月18日)

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No.3	調査位置	池島熱帯植物園掘削T2目	北緯	3° 04' 28.61"
所在地	池島町	調査者	国書院	東経	133° 37' 43.69"
調査会社	株式会社 エス・ピー・シー 電話 0983-23-1071	主任技師	阿部 哲也 資格番号 第1645号	調査員	森田 長貴 阿部 哲也 国書院 第1645号
調査深度	17.7 2.41m	方	北緯3°04'28.61" 東経133°37'43.69"	試錐	東邦地下工機3
掘削孔径	26.0cm	度	北緯3°04'28.61" 東経133°37'43.69"	ポンプ	東邦地下工機3

[illegible]

No2

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

圖	宣	卷	85 文木	藏場五公開	地質調查業務
---	---	---	-------	-------	--------

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

[illegible][illegible]

No1

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

關 查 者 R5大木 藍橋浜公園 融質調査業務

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No.1	調査位置	徳島県徳市藍野町丁1丁目						北緯			
設計者	株式会社 東栄建設文化研究所		Auftraggeber	株式会社 東栄建設						撮影時期	令和6年3月26日	
調査実施者	株式会社 W.C.・デザイン TEL 0893-52-7777		主任技師	阿部 哲也 資格番号 第00960号		代表人	倉田 浩典 資格番号 第11645号		コア 開発者	阿部 哲也 資格番号 第11645号	ボーリング 責任者	井出 正雄 資格番号 第19189号
穴口標高	T.P. +2.7m		角			方位			使用機器	東洋地下工機D-1		
新孔直径	φ		深			位			エンジン	クボ EX-80		
									ポンプ	東洋地下工機D-3		

[illegible]

No4

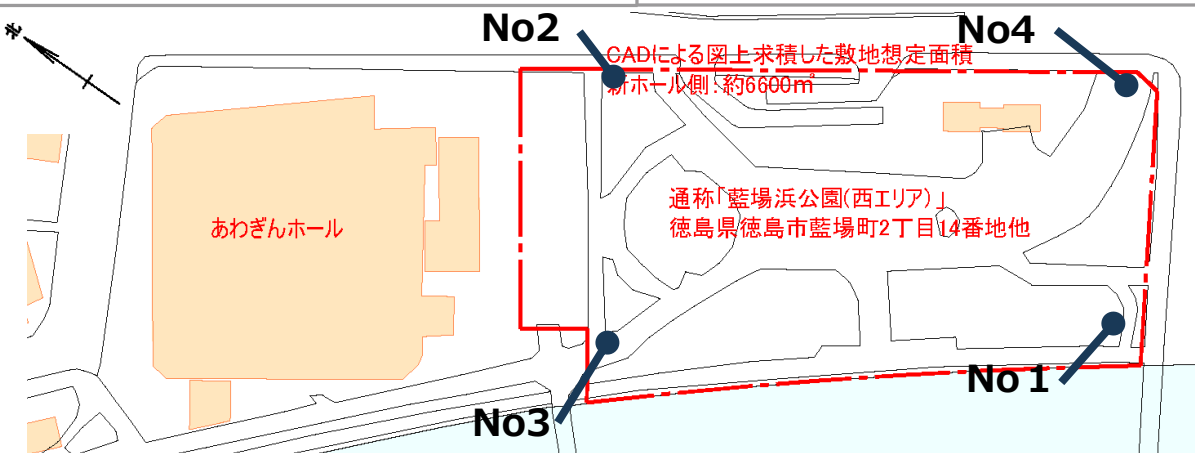
土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

編	著	者	邱文忠 藍場溪公園 地質解析調查業務
---	---	---	--------------------

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No.4	調査位置	福島県福島市竜崎町2丁目				北緯	
観測対象	熱湯泉	主査技師	阿部 哲也 〒965-0855		調査年度	2024年 5月 8日 ~ 2024年 5月 11日		登録
調査者	株式会社 三友エス・シー TEL 0983-22-1100	主任技師	阿部 哲也 〒965-0855		代表者	奥田 祐典 〒965-0855		ボーリング機
孔口番号		地盤状況	地盤状況		コア	阿部 哲也 〒965-0855		機長
観測孔長	41.00m	方位	方位		調査者	阿部 哲也 〒965-0855		責任者
		角度	角度		製機	東芝地下工機「C型」		
		位置	位置		エンジン	クボタTX-90		ポンプ
						東芝地下工機「A-2型」		

[illegible]

支持層と想定する層

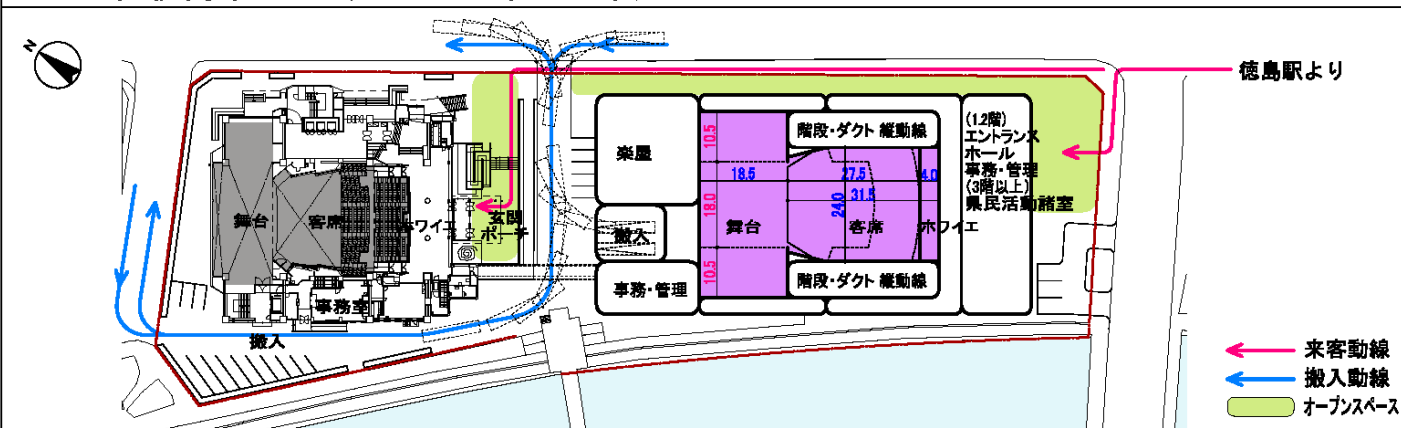
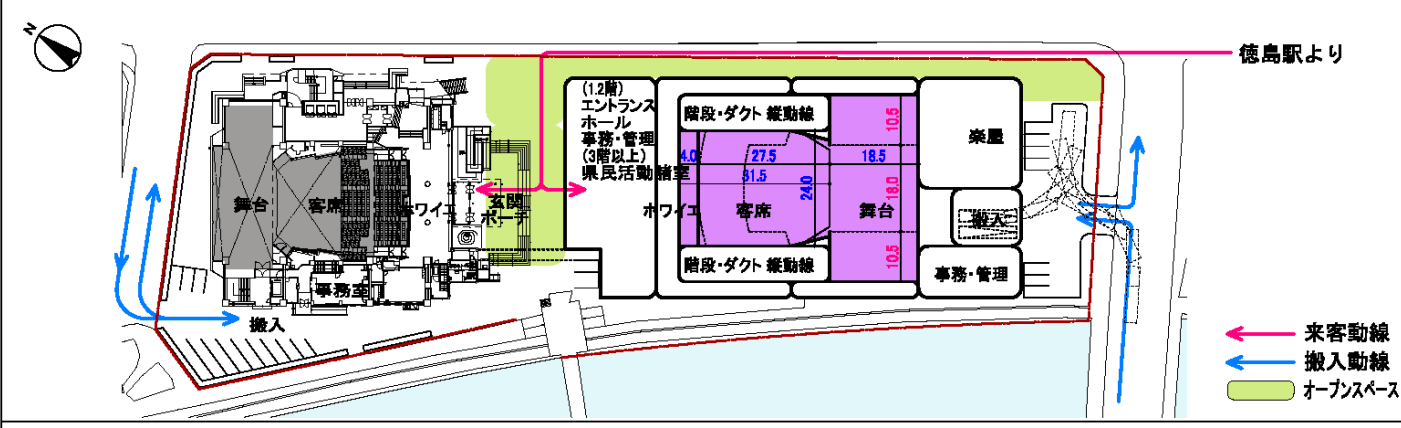
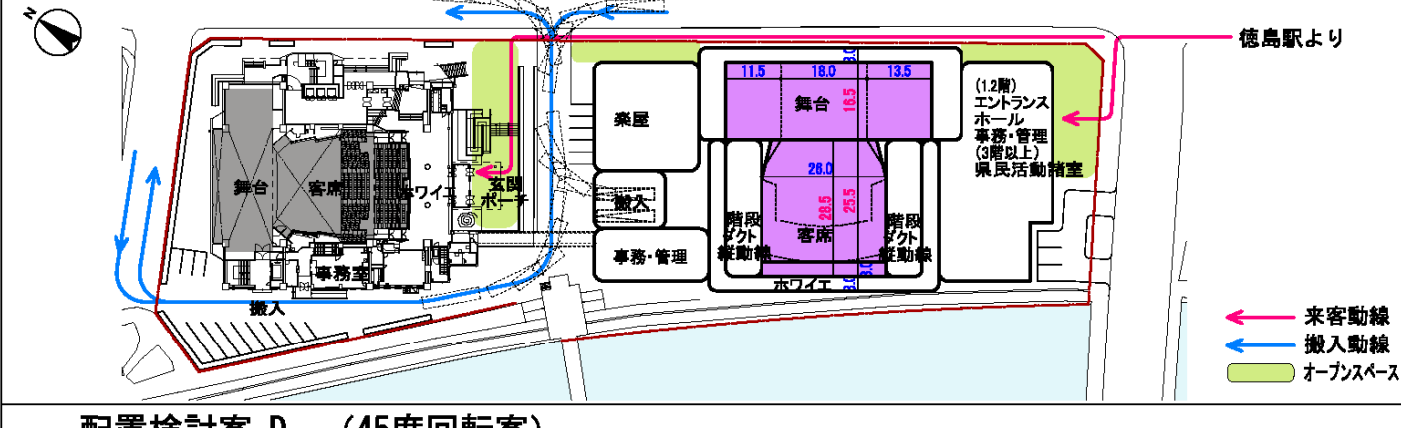
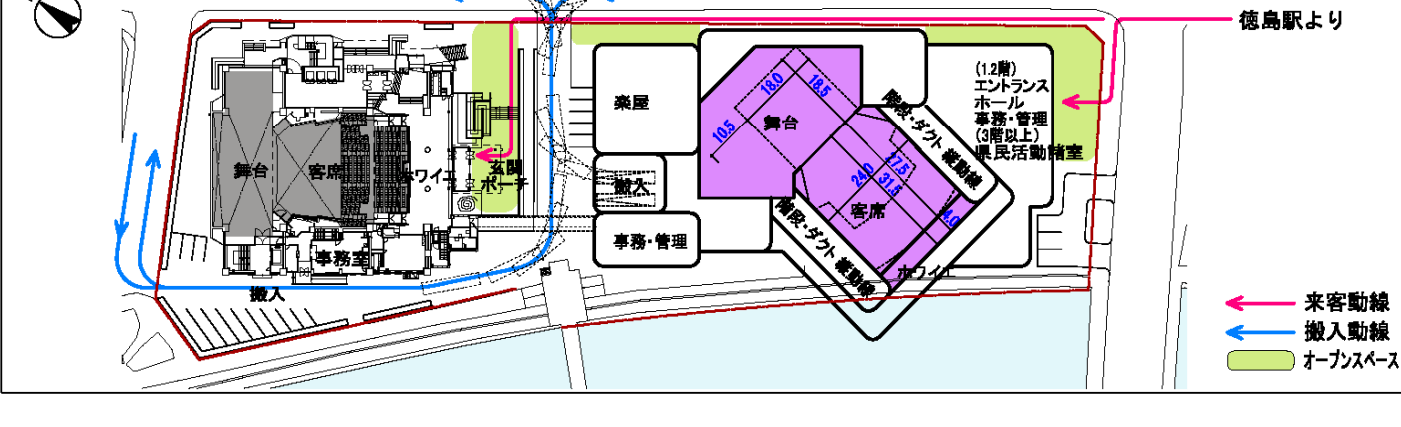
上盤面

2. 0mで掘止め



地質調査4か所実施 2024年3月～5月 ※(株)エス・ビー・シーが実施
想定支持層の深さは以下の通り
No1(南西角) GL-36m No2(北東角) GL-20m No3(北西角) GL-19m No4(南東角) GL-25m
支持層の不陸が大きい地盤の可能性があり、杭工事等の不確定リスクが想定

配置計画比較

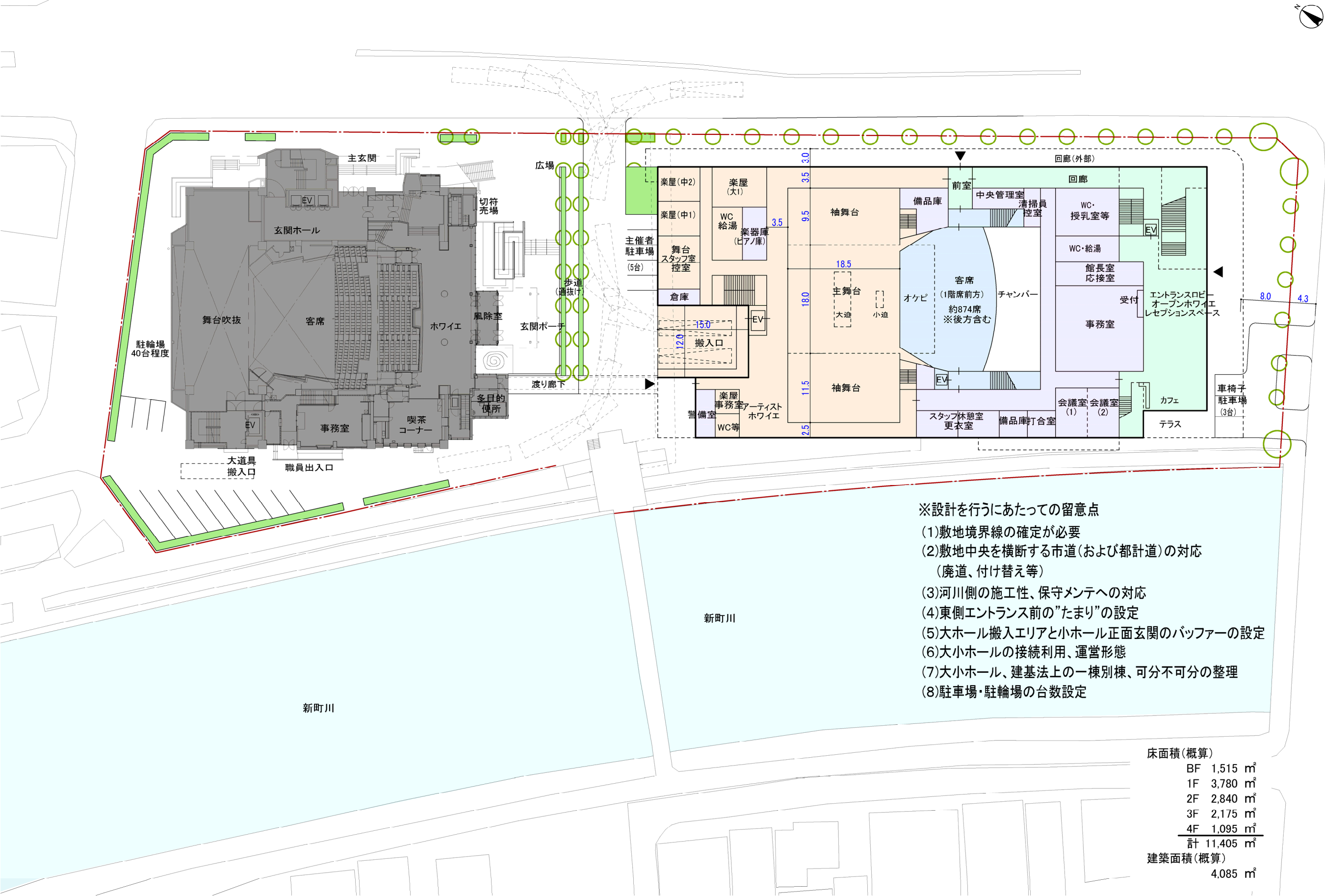
配置検討案-A (ホワイエ東向き案)  徳島駅より 来客動線 搬入動線 オープンスペース	メリット・デメリット (特徴・課題等) メリット ・ 東側 (駅側) からのアプローチに対して、「顔」をつくりやすい。 ・ あわぎんホールと搬出入動線が兼用可能。利便性向上。 ・ 施設全体の構成は比較的に合理的、機能的。 デメリット ・ エントランス機能について、あわぎんホールの正面玄関に搬入口を向ける形となるため、二つのホールを併設する魅力や相乗効果にやや欠ける。 課題 ・ 敷地の南北方向に余裕がないため、舞台の間口寸法や北側道路からの「引き (余白)」に今後の課題。 ・ 敷地の東西方向も決して余裕があるわけではないので、ホールの「顔」となるエントランスホール前の余白についても今後の課題。 モデルプランについては、 ・ 徳島駅周辺からのアプローチの良さ ・ 単体でも合理的・機能的 ・ あわぎんホールと搬入動線の一体活用が見込まれることから「配置検討案-A」を選んでいる
配置検討案-B (ホワイエ西向き案)  徳島駅より 来客動線 搬入動線 オープンスペース	メリット ・ あわぎんホールと正面玄関が向き合うことで、二つのホールを併設する魅力や相乗効果を生み出しやすい。 ・ 施設全体の構成は比較的に合理的、機能的。 デメリット ・ 東側 (駅側) からの来客アプローチに対して、バックヤードを向けてしまうことになるので、意匠上の工夫が必要。 課題 ・ 敷地の南北方向に余裕がないため、舞台の間口寸法や北側道路からの「引き (余白)」に今後の課題。
配置検討案-C (90度回転案)  徳島駅より 来客動線 搬入動線 オープンスペース	メリット ・ 東側 (駅側) からのアプローチに対して、「顔」をつくりやすい。 ・ あわぎんホールと搬出入動線が兼用可能。利便性向上。 ・ 舞台・袖の間口寸法を十分に確保することが可能。 デメリット ・ 敷地の南北方向に余裕がないため、舞台や客席の奥行寸法が小さくなり、客席の階数が4階以上となる。 (→ 客席奥行寸法の事例等確認必要。) → 今後の課題 課題 ・ 敷地の南北方向に余裕がないため、北側道路の「引き (余白)」や、河川際のおさまりにについても今後の課題。
配置検討案-D (45度回転案)  徳島駅より 来客動線 搬入動線 オープンスペース	メリット ・ 東側 (駅側) からのアプローチに対して、「顔」をつくりやすい。 ・ あわぎんホールと搬出入動線が兼用可能。利便性向上。 ・ 演劇劇場 (専用劇場型) として舞台形式や運用に特色を持たせることが可能。 デメリット ・ 上手・下手の舞台袖が変形で、面積もアンバランスなため、大がかりな舞台装置を必要とする演目 (オペラ等) に制約が出る可能性あり。 ・ 敷地の南北方向に余裕がないため、舞台や客席の形状・寸法が十分にとれるかさらに精度の高い検証が必要。 課題 ・ 利用団体や想定される公演内容との調整が必要。 備考 (各案共通) ※ホールの構成については、タイトな敷地の中で建物をコンパクト化するために3層構成を前提とした。 ※立見席・仮設席については、詳細設計時の検討になるが、全体の工事費・面積のバランス調整の中で、若干設けられる可能性がある。

配置検討案A 配置イメージ

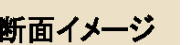
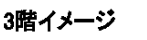
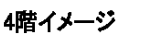
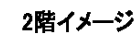


新ホール 配置イメージ図

モデルプラン配置イメージ



モデルプラン平面イメージ



コスト・スケジュール

建設場所	藍場浜公園(西エリア)	(参考)徳島市文化センター跡地
本体工事費	約142億円 ※その他関連工事費(藍場浜第一駐車場設備・解体等) として約12億円を見込む	193億9,300万円
延べ床面積	約1万1400㎡	1万6223㎡
大ホール	固定1504席+立見・仮設	1804席 (固定1726+立見・仮設等78)
小ホール	なし (隣接するあわぎんホールを活用)	307席 (固定293席+立見・仮設等14)
設計期間	約1年6ヶ月	実施済
工事期間	約2年10ヶ月 (4週8閉所)	約2年11ヶ月 (4週8休)